博士前期課程　言語文化学専攻

―学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針―

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

言語文化学専攻は、急速に変化する国際情勢のもとで、教育現場や国際交流の現場において、他職種とも協働しながら豊かな教養と専門性を持って活躍できる人材を育成することを目的としています。本専攻の日本アジア言語文化学コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースでは、言語と文学を研究対象の中心に据え、それに密接に関連する文化の諸現象全般にも注意をはらいつつ、課題を確実に把握し、その上に立って、より大きな展望にいたることを目指します。

【身につけるべき「資質・能力」】

・文献資料の読み解きを通して培われる、現実に対する確かな認識と判断力
・人間のコミュニケーションへの理解に根ざした、高度な言語運用能力
・対象を的確に把握し、そこから得られた知見を自ら社会に発信する力

【学位授与の形式的要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基礎的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では特論、演習を通して高度な専門教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

本専攻では、日本、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど各地域の言語と文学の研究を通して、言語文化の伝統と革新、人間のコミュニケーション活動の実践について学び、日本文化と異文化を深く理解して、自らの知見を世界に向けて発信する力を身につけることを目指しています。また学際的視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力

を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの６年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価の仕方】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【入学者選抜の前提となる教育理念】

言語文化学専攻には研究対象や方法など多彩な専攻分野の教員が集っています。このメリットを活かして、例えば、写本を一字一字丹念に読む演習とコンピュータによる電子テクスト分析のように、一見すると離れた二つの科目を共に履修したり、近代国文学を専攻しつつ、フランス文学理論をあわせて学ぶなど、自分の研究テーマをしっかりと持ち、かつ広い視野に立って、幅広い研究対象にチャレンジする学生を求めます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

・専門分野に関する基礎的知識
・資料や文献を読み解くための語学力
・調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
・学部での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
・社会生活に根ざした真摯な問題意識
・大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の方法】

コースごとに、一般入試、社会人特別入試、留学生特別入試を実施します。大学院で学ぶために必要な専門知識や研究を計画し実施する能力を測るために、筆記試験と口述試験を行って選抜します。